

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600720		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム 三井楽A棟・B棟		
所在地	長崎県五島市三井楽町濱ノ畔3185		
自己評価作成日	令和5年6月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人では「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します」の理念のもと、利用者・ご家族様の希望をできる限り取り入れ、安心・安全な生活が送れるよう支援しています。ホーム内の壁面には季節ごとに作品を作り掲示しています。また、利用者と一緒に作品作りを行ったり、食事作りによって、参加する・できることを提供・支援しています。A棟B棟での合同での行事は、楽しさに加え、隣の利用者に会える楽しみも与えています。三井楽の自然を(畑で取れる野菜、海の鮮魚)地域の方やご家族が差し入れていただき、食卓に並ぶことで、自宅にいた時を思い出し、楽しみのひと時を過ごしている。日本の最西端にあるGH三井楽は、真っ赤な夕日に照らされて、時を忘れるくらいに潮風と癒しを感じながら生活を満喫しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では身体拘束はあってはならないとの信念の下、利用者の尊厳と意向を尊重した支援に取り組んでいる。職員の利用者への声掛けは穏やかで、排泄時に失敗してもさりげなく対応し、自力でのトイレ排泄をサポートしたり、毎週のシーツ交換での丁寧なベッドメイクの様子は、利用者との信頼関係作りに繋がっている。住み慣れた地域への花見やドライブの他、利用者の経験を生かした食事の下ごしらえやシールを貯め、楽しみながら行うリハビリ、プランター栽培の様子を綴った絵日記など、利用者の生活意欲を高める支援内容から、本人と家族の意向を把握し、尊重していることがわかる。コロナが5類に移行し、再開した家族交流会には多数の家族が訪れ、会える喜びをともに分かち合っている。理念にある「目配り気配り心配り」を職員同士で協力し合い、具現化している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で統一した理念を作成し取り組んでいる。朝の申し送り時、全員で唱和している。	法人全体で統一した理念とクレドを事業所内に掲示し、職員は毎朝唱和している。採用時の法人内研修や教育研修にて、理念の意義を伝えている。事業所では利用者に優しく笑顔で接することをモットーとしており、利用者のできることを見守りながら、本人の活動意欲が湧くよう意思を尊重した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各行事に参加し、地域との交流を行っている。酒蔵開き、バラモンキング、椿マラソン、ひな人形展、文化祭等	地区にある酒蔵でのイベントや産品祭り等、地域の行事に利用者も職員の支援を受け、参加している。また、地域の小学生が鉢植えの花を届けに事業所を訪れる等の交流がある。自治会に加入し回覧板を回したり、散歩時の挨拶や収穫物の差し入れなど、地域と繋がりながら暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地区代表、民生委員地域住民に認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者へのサービス内容の説明(写真展示)したり、意見や要望、提案は出来る限りサービス向上に活かしている。	令和4年度は書面会議を含め6回実施し、事業実績や計画、勉強会や身体的拘束等の適正化委員会の報告を行っている。対面会議では地域行事の開催等情報を得ており、書面会議では資料を送付し、確認書にて意見をもらっている。ただし、会議における検討事項等が議事録から確認できない。	運営推進会議での意見や要望、提案等を事業所のサービス向上に活かせるよう議事録への記載内容等、工夫・検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、文書での開催が多かったが、きちんと意見を貰い、サービスの向上に活かしている。	認定調査や介護保険の書類提出、行政主催の研修会案内等の情報取得は法人本部を介して行っている。不明な点があれば、管理者が直接窓口を訪ねている。運営推進会議では意見や助言をもらっており、職員は行政主催の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、研修会への参加、また毎月事例を挙げて対応方法を検討している。	身体拘束はあってはならないこととの信念のもと、拘束のない支援に取り組んでいる。本部での研修の他、毎月職員会議で事例検討し、話し合い、どこまでが拘束かを正しく理解する機会を設けている。気になる言葉遣いがあれば職員同士が注意し合っており、チームワークよく拘束のない支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月事例を挙げ、対応方法を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度や内容については、研修会で理解し、本人、家族からの問い合わせについては適切に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと説明し、本人、家族の意見を尊重して、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や要望については、可能な限り反映されている。	家族や利用者が意見や要望がある場合、意見箱や内部や外部の相談窓口があることを書面で説明している。また職員は、ホーム便りや電話で利用者の様子を家族に伝えている。今年度は、家族参加の夏祭りを開催し、事業所に関わる意見を聞く機会が増えている。家族の思いを積極的にサービス向上に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議へ参加し、職員の意見を聞ききちんと対応している。	管理者は、職員会議や日々の申し送りを通して、職員の意見や提案を聞いている。施設長は、個人面談、管理者からの報告などから、事業所の様子を把握し運営に反映している。職員の気づきやアイデアから、支援時における声掛けや業務内容の見直しなどの事例が確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況や体調等気にかけて、働きやすい職場環境を整えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は対話を重視し、職員の能力向上を期待しながら研修の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交流はなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族から生活歴、身体状況を聞き取り、本人らしく生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見や要望を傾聴し、お互いが協力してサービス提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話の中で、今一番必要としている事を引き出し、より良いサービスが出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と、家族のような関係を築くよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況を伝え、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って、外へ出かけたり家族、知人へ電話したりしている。	利用者の交友関係や思い出のある場所などの情報は、本人や家族からヒヤリングし、基本情報にまとめている。入居前の地域活動や趣味の継続などの事例が確認できる。コロナ禍においては、電話や手紙、窓越し面会など工夫しながら、家族や知人との交友関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	皆で協力し合いながら、出来る事をやっても らえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	契約が切れても、これまでの関係を維持し、 入院の場合は退院後のフォローも含め対応 している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から聞き取り、本人の意思 を尊重しながら把握するよう努めている。	職員は利用者に寄り添い、会話や仕草から思い の把握に努めている。また、困り事がないか等、 利用者が思いを表出しやすいよう、言葉掛けの工 夫があり、自身で服を選択したり、日中活動の参 加などが確認できる。得た情報は、カンファレンス やモニタリング時に議題にあげ、支援に活かして いる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、その人の生活歴や習慣、暮らし方 等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	本人のペースで生活できるよう見守りながら 把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	本人、家族への意見を求め、職員全員で話 し合い、現状に合った介護計画を作成して いる。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の計画を作成している。毎 月のカンファレンスとモニタリングで達成度を把握 し、理学療法士に基本動作等確認してもらい、本 人・家族の要望を聞き、同意を得て計画を更新し ている。「良い介護記録は良いケアから生まれる」 との法人の考え方に沿い、職員は記しており、記 録内容から実践状況が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報を 共有しながら意見を出し合い見直しを図って いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るよう、情報の共有化に努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時の状況に応じて、地域資源を活用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時、状態の変化時、素早く対応し報告している。	かかりつけ医の継続受診は、職員が同行し、状況に応じて家族が合流している。歯科は協力医による訪問診療を受けている。受診結果や薬等に変更があれば、家族に報告している。毎週法人の訪問看護師が訪れ、利用者の健康状態を把握しており、夜間緊急時には指示を仰ぎ適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師に気づきを報告し指示を仰いでいる。又、状態急変時は日中、夜間関係なく指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の情報を提供し、退院後の受け入れ態勢が出来るよう事業所との連携も支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、十分に説明を行いかかりつけ医や協力病院と連携して家族へのフォローも支援している。	重度化した場合の指針、看取り介護についての同意書がある。また重度化した場合、医師から家族へ説明があり、状況変化に応じて家族の思いを確認している。事業所で看取った経験はあるものの、近年看取り支援の事例はない。現状に即した看取り介護について口頭で伝えている内容と同様の説明文書の作成はこれからである。	本人が安心して最期を迎えられるよう、現在口頭で伝えている内容の文書化やグループホームの看取り支援に対する考えを家族に分かりやすく伝える仕組みづくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急対応や初期対応の訓練を定期的に行い実践に備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	総合訓練を年2回、自主訓練を毎月実施している。災害訓練についても風水害を想定している。	年2回、消防署と防災会社の立会いの下、夜間想定総合避難訓練を実施している。自然災害の大規模想定訓練は、利用者がカッパを着用し、避難場所へ車移動するまでを確認している。備蓄品や持ち出し用の利用者情報を整備している。次回は昼間の訓練を予定しており、コロナ禍のため叶わなかった地域住民の参加を呼び掛けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傷つけないような言葉かけや、その人らしい生活が出来るよう、プライバシーにも気を配り支援している。	職員は、内部研修を受講することで、利用者の人格に配慮した言葉遣いや接し方を具体的に確認し、日常的に実践している。羞恥心やプライバシーに関することは特に注意を払っている。法人では、年1回法令遵守の研修も行っており、情報収集や取扱は適切であることがわかる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や想いに出来る限り応える事が出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ1日を生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったりさりげなく身だしなみを整える等、工夫しておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りをしたり、後片付けをしたりしている。	職員は、地域の旬の食材やリクエスト等から、毎日献立を作成している。利用者の咀嚼に合わせた刻みや盛りつけ、箸やスプーンの準備を行うことで、利用者が意欲を持って食事をとっている。季節行事の特別メニューや家族会ではバーベキューなど、いつもと異なる食事を企画し、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、情報を共有し生活の中で摂取できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、夕食後は義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、適切な時間誘導をし失敗の無いよう、自立に向けた取り組みを行っている。	職員は、利用者への排泄支援の状況を、排泄チェックシートや健康管理表に記録している。職員は、記録を基に利用者のプライバシーを保つ為にも、排泄で失敗をしないよう、支援内容を検討している。日中快適に過ごせるよう、布パンツ着用を検討し実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、水分チェック表、食材の工夫、運動に心掛け便秘予防に努めている。又、センナ茶も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を予定しているが、本人の希望に沿って日にち、時間を変更したりして入浴をしてもらっている。	毎日入浴準備をし、週3日を目安に声をかけている。体調が悪く入浴ができない日は、清拭で対応している。入浴拒否がある場合は、時間や日にち、声掛けを変えながら、本人の意思を優先し対応している。浴槽にゆっくり浸かり、洗髪や体の洗い方など、習慣に合わせながら、入浴が心地よくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理に基づき対応している。又、誤薬防止の為、配薬・与薬・服薬のダブルチェックと名前を声に出して確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事を発揮してもらい、アドバイスしながら一緒にやる事で、本人の力を引き出し楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見ながら、ドライブに出かけたり荘外への散歩等を行っている。	天候や体調を見ながら、敷地内やドライブなどさまざまな外出支援を行っている。外出するために、日々廊下で歩行訓練を行ったり、プランター栽培など利用者が外に出る目的を準備するなど、利用者が意欲的に過ごせるよう工夫している。四季折々の花見ドライブや地域行事など、外出が利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の同意を得てホームの方で金銭管理は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話できるようにしている。又、携帯を持っている利用者もいて、自由に電話してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節ごとの壁飾りを作成したり、旬の食材を利用して食事を作ったりしている。	リビングや廊下には、利用者と職員が一緒に作成した季節ごとの作品があり、壁にはリハビリや体操を楽しみながらできるようシールカードを掲示している。利用者はリビングで寛いだり、廊下で運動したり、食事の下準備を手伝う等自由に過ごしている。職員による毎日の清掃、換気、消毒にて快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング室で気の合った者同士、会話を楽しんだり、テレビを観たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置いたりして居心地よく生活できるよう支援している。	持ち込み品に制限はなく、家族写真や家具、テレビ、ラジオ、愛用の鏡等自由に飾っている。居室の入口にはシーツ交換のサインがあり、交換時には利用者への思いを込め丁寧なベッドメイクを行っている。衣替えを職員と一緒にする人や自室を箒で掃除する人もおり、利用者が快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で利用者の能力を活かし、出来ない部分を支援する事で、自立した生活が送れるようにしている。		